

そう だい
総 題 「ヨハネによる福音書の主題」

だいさん か しっぴつ はいけい じょげん
第3課 執筆の背景——序言

しもむらかずみ
下村和美

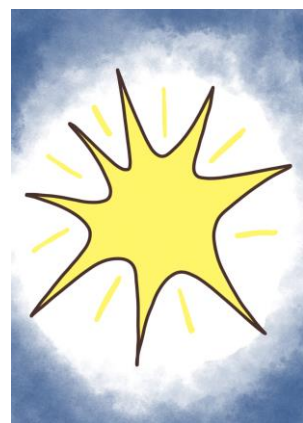
いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

こんしゅう ふくいんしよ はじ せいいく わたし どくしや てんち そうぞうまえ うちゅう
今週は、ヨハネによる福音書の初めの聖句から、私たち読者を天地創造前のイエス・キリストや宇宙がど
のように誕生したかの一部についてを示し、ヨハネの福音書の他の聖句からも同じように示されていることを
かくにん
確認していきます。

このヨハネによる福音書の主題は「イエスがメシアである」ということを聖書の中の
ちじょうしょうがい わ
イエスの地上生涯から分かるようにしています。

に にちようび はじ かみ ことば
2. 日曜日：初めに（神なる言）

ヨハネによる福音書の初めに書かれている「初めに言があった。言は神と共にあつ
ことば かみ とも
た。言は神であった。」（ヨハネ1：1）の言葉の「初めに」は「言」であるイエスは
うちゅう はじ まえ せんざい えいえん せんざい かた だんげん つぎ
宇宙の始まる前から存在し、永遠に存在している方であることを断言しています。次
に「言は神と共にあつた」と記し、ヨハネはヨハネによる福音書の1：18でも同じように「言」（イエス）
は「父のふところにいる」と述べて、イエスと父なる神はとても親しい関係であると言っています。またイエスは
ちち かみ ひと かみ かみ とも せんざい せんざい そうぞう かみ
父なる神と一つの神であり、神と共に存在しなかったものを存在するようにされた創造の神でもあられます。



さん げつようび ことば にく
3. 月曜日：言葉は肉となった

ヨハネは「言」（ギリシア語のロゴス）という言葉を用いて、
ちじょう にんげん う あらわ
地上に人間として生まれたイエス・キリストを現しました。
また、ヨハネはイエス（言／ロゴス）を、私たち人間と個人
てき かんけい も かた えいえん かみ わたし
的レベルで関係を持てくださる方であり、永遠の神が私
おな ひとり にんげん ちじょう き くだ かた
たちと同じ一人の人間として、この地上に来て下さった方と
しょうかい
して紹介しています。

つまりロゴスは人間となられた神であるイエスを示し、人間
せつしよく かみ えいこう おお かた しめ
と接触できるように、神の栄光を覆われた方であることを示
しました。



4. 火曜日：「言」を聞くか否か

「言（ロゴス）」は、世の人々がどのようにイエスと関わったかということも説明しています。ヨハネによる福音書 1：9 ではイエスを「まことの光」と呼び、このイエスの放つ光は、この世に生まれる全ての人を照らし、全世界を照らす光として理解できます。しかし、ヨハネによる福音書の主要な主題は、人々が「言（ロゴス）」また「まことの光」であるイエスを受け入れるか、受け入れないかを示しています。



ローマの信徒への手紙で、多くのユダヤ人がイエスを受け入れないことが書いてありますが、パウロは異邦人と共に多くのユダヤ人がイエスをメシア（救い主）として受け入れるとも言って希望を与えています。つまり人はイエス・キリストを自分の救い主（メシア）として信じることによって救われるということを示しています。

5. 水曜日：繰り返し登場する主題（信仰／不信仰）

人類は2つのグループに分かれます。

①一つは、イエスを信じ、救い主として受け入れる人々。

信じたグループには11弟子、ニコデモ、ヤコブの井戸の女性、生まれつき盲人であった男性などがいます。

②もう一つは、信じる機会があるのに信じないことを選ぶ人々です。

信じなかったグループには、イエスの弟子の一人であったイスカリオテのユダ、ファリ

サイ派の人々、大祭司、5000人の給食という奇跡の現場にいたけれど信じなかった人々などがいます。



イエスを信じることは私たちが頭で信じるだけでなく、信じたことを行い、生き方に現わすことが求められます。

このイエスを信じる人々と信じなかった人々の違いは、日頃のイエスとの関わりによります。

①信じた人は、イエスに心を開き、イエスの所に来て逃げません。こうして信仰によって信じることによって、信じた人々は「神の子」となります。

②その人々とは逆に、イエスを信じない人たちは、イエスと闘うためにイエスの下に来ます。また、イエスを裁く側に立っています。

6. 木曜日：繰り返し登場する主題（栄光）

昨日の学びの信じるグループと信じないグループの間にあるものとして、イエスは何者であるか、イエスは何をしておられるかが中心になっています。

ヨハネによる福音書の序言は、イエスが何もなかったものが存在するようにした創造者として紹介していま

す。また、^{じゆにく}受肉によって人間^{にんげん}となられたイエスが、人間^{にんげん}に栄光^{えいこう}を与えるのは、十字架^{じゆうじか}の死^しと結び^{むす}ついていると教^{おし}えています。

人間的^{にんげんてき}に見れば十字架^{じゆうじか}の死^しは、とても恥^はずかしい処刑^{しよけいほうほう}方法^{かみ}でしたが、神^{かみ}の最大^{さいだい}の栄光^{えいこう}は、イエスの十字架^{じゆうじか}の死^しによって神^{かみ}ご自身^{じしん}がこの世^よの罪^{つみ}を負^おわれるという、恥^はずかしいこと^{なか}の中に示^{しめ}しました。



7. 金曜日：さらなる研究

神^{かみ}の御子^{みこ}であられるイエスは、永遠^{えいえん}の昔^{むかし}から存在^{そんざい}し、この世^よを創造^{そうぞう}されたイエスが父^{ちち}なる神^{かみ}と共^{とも}におられました。イエスは世^よの罪^{つみ}のために十字架^{じゆうじか}で死^しなれた救^{すく}い主^{ぬし}として、罪人^{つみびと}の前^{まえ}に示^{しめ}されました。罪人^{つみびと}は私^{わたし}たちに対^{たい}するイエスの深^{ふか}い愛^{あい}を知る時^しに、心^{こころ}は和^{やわ}らげられ、悔^くい改^{あらた}めようという心^{こころ}に導^{みちび}かれます。



そして、人^{ひと}が正^{ただ}しいことをしたいと望^{のぞ}む時^{とき}、イエスの力^{ちから}（聖霊^{せいれい}）がその人^{ひと}に働^{はたら}いて、イエスに引^ひき付けられ、良^{りょう}心^{しん}が呼^よび覚^さまされ、悔^くい改^{あらた}められます。